



これからの社会に大学が 地域や企業に貢献するために必要な視点

地域連携推進センター長 鈴木 英樹



皆さん、こんにちは。本学の地域連携推進センター長を拝命しています鈴木英樹です。この冊子を、学位記授与式の合間に目にのぞいていただいていることを思い浮かべながら、本学の地域連携推進センターのこと、大学が目指そうとする地域や企業への貢献のありかた、などについて私見を交えお伝えします。

本学の地域連携推進センターは2014年に発足(2017年名称変更)し、「地域連携に関する基本方針」を基盤として活動しています。そこには「地域に開かれた大学」「地域課題解決のための人材育成」などが基本方針として謳われ、その方針を具現化するために「地方自治体との包括連携協定による地域発展のための諸事業の実施」「人材育成と教育の充実」「地域課題解決に向けた研究の推進」、そして地域社会一般の教養啓発を目的とした公開講座の開催」などを実施しています。

2024年度末での実績として、当別町、滝川市、苫小牧市、浜頓別町、北広島市、由仁町の6市町と包括連携協定を締結し、協定に基づく諸事業を展開しているほか、主に札幌市内や当別町内にて年間60回以上の公開講座を開催し多くの方が受講されるなど、実績を上げています。

このように述べると、「本学が地域に対し様々な取り組みを行っているのだなあ」と目を細められる方も多いと思いますが、私の考えは少しそれとは異なっています。本学には300人以上の教員が在籍し、3,000人以上の学生を有しています。そして、

広大なキャンパスや様々な機器備品を供えています。それらの数や規模から考えてみると、本学が取り組んでいくことにはまだまだ「伸びしろ」があるのではないかと考えています。

大学の使命として挙げられる項目に、「教育」「研究」そして「地域や社会への貢献」があり、どれも同等に重要であることがよく言われていて、本学でも、教職員がそれぞれに取り組んでいます。しかし、これからの時代においては、教育・研究・そして社会貢献が相互に関連しているという視点をさらに強く認識し、地域や社会の実装や地域課題解決のための主体的な行動や思考を有する必要があります。

「6次産業化」という言葉があります。1次(生産)、2次(加工)、3次(販売・流通)を掛け合わせた造語ですが、大学が持つ知的・人的・物的資源を社会のために役立てていくには、1次のみでは不十分であり、どのように活かすべきかを先方に委ねるのではなく、大学側が主体的に提案することが6次化のカギだと考えています。「大学は何をしているのか」ではなく「大学が有する資源や知見を通して地域や社会にどう役立ててもらうのか」を積極的に発信するとともに、教職員一人一人がそのことを頭に置きながら地域貢献に係る実践に取り組んでいただけるよう、そして大学と地域の橋渡しをしていくよう、センターとして取り組んでいきたいと考えています。

CONTENTS

これからの社会に大学が 地域や企業に貢献するために必要な視点	1
自治体との連携について	2
地域貢献活動・職業体験イベント	4
学生の活動について	6
ポラリス基金のご案内	7
定年を迎える先生からのメッセージ	8
同窓会活動状況	10
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	

北広島市との連携事業

高橋・下山ゼミの学生が三井アウトレットパーク 札幌北広島でのデイサービス利用者との交流イベントに参加しました

2024年6月5日(水)、三井アウトレットパーク 札幌北広島で行われたデイサービスセンター利用者との交流イベント「三井アウトレットパーク 札幌北広島へ行こう!」に参加しました。このイベントは社会福祉法人厚仁会清幌園里塚緑ヶ丘デイサービスセンターの利用者の方と、本学福祉マネジメント学科の高橋由紀講師・下山美由紀講師のゼミ生(4年生5名)が制作体験やお買い物サポートをしながら交流するもので、三井アウトレットパーク 札幌北広島様主催のもと行われました。学生は、ゼミ活動の一環として、デイサービス利用者さんたちが楽しんでいただけるよう、制作物やお揃いのTシャツなどを事前に準備して会場へ向かいました。当日は学生とデイサービス利用者の方がペアになり、折り紙や紙コップを使用して、風鈴や風車などを制作しました。また、三井アウトレットパーク 札幌北広島内で一緒に買い物を楽しみました。参加した学生たちは、実習以外での自由な交流をとても楽しんでいました。



【北広島市連携事業】 「連携協定締結記念・市民向け公開講座」を開講しました



2024年10月31日(木)、北広島市芸術文化ホールにて「連携協定締結記念・市民向け公開講座」を開講しました。

川村北広島市副市長と三国学長からご挨拶を頂いた後、テーマ①「歯周病と認知症」(歯学部・門貴司准教授)、テーマ②「歯の磨き方」(歯科衛生士専門学校・岡橋智恵専任教員)と題し、2部構成で講座を実施しました。

テーマ①では、歯周病と認知症の深い関連性と予防方法について、また、テーマ②では、歯を正しく磨くための道具(歯ブラシ・研磨剤など)の具体的な選び方と使用方法についての説明があり、参加者は熱心に傾きながら講師の話に聞き入っていました。

63名の北広島市民の皆さんにご参加いただきました。今後も引き続き、地域の皆さまの関心に合致し、健康増進に貢献できる講座を開講していく予定です。

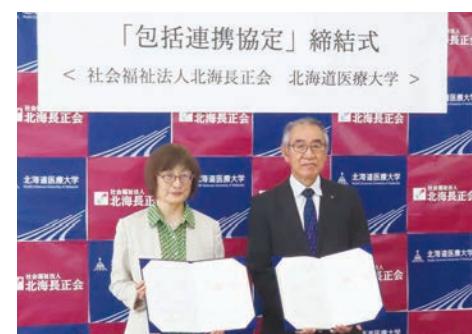
北広島市の社会福祉法人と包括連携協定を締結しました

2024年7月30日(火)、北海道医療大学は、北広島市にある「社会福祉法人北海長正会」および「社会福祉法人北ひろしま福祉会」と包括連携協定を締結いたしました。

両社会福祉法人とは、これまでとりわけ福祉の分野においてつながりがありました。大学として包括連携協定を結ぶことにより、さらに多くの分野での連携が可能となりました。両社会福祉法人とともに北広島市における地域貢献を目指します。

今後、本連携協定に基づく各種の連携事業を実施してまいります。事業実施が決まり次第、ホームページ等で詳細をお知らせいたします。

なお、本学と社会福祉法人との連携協定締結は「社会福祉法人きたの愛光会」「社会福祉法人ほくろう福祉協会」「社会福祉法人ゆうゆう」に続き計5件となりました。



2024年度に実施した北広島市との連携事業

・北広島市役所との会議(北広島市連携WG)・社会福祉施設との連携協定・KITAHIRO FESに北広島市「地域おこし協力隊」として学生派遣・ANAオープン共同出展・医療法人翔仁会秋祭りに学生派遣・「北広島住生活ミライ会議」開催・ジョブフェスinきたひろに職業体験ブース出展・Fビレッジハロウィンイベントに学生派遣・北広島市市民向け公開講座にて本学教員講座開講・北広島市介護サービス連絡協議会公開講座にて本学教員講座開講・三井アウトレットパーク札幌北広島にてデイサービス利用者との交流・北広島市デイサービス事業所にて利用者と交流

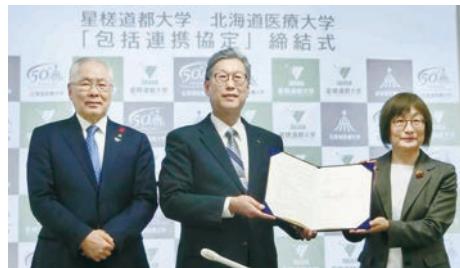
02

星槎道都大学(北広島市)と包括連携協定を締結しました

2024年12月4日(水)、星槎道都大学(北広島市)と包括連携協定を締結いたしました。締結式は北広島市庁舎で執り行われ、星槎道都大学飯浜浩幸学長と本学三国久美学長の署名により協定が締結されました。

本学は2028年4月に北広島市北海道ボールパークFビル内に新キャンパスの設置を予定しています。同市内に所在する2大学で連携・協力しながら、北広島市をはじめとする地域社会に貢献し、さらなる発展に寄与できるよう、さまざまな協定事業に取り組んでまいります。

なお、締結式には北広島市上野正三市長がご出席され、両大学への期待の言葉をいただいています。



03

由仁町と包括連携協定を締結しました



2024年12月25日(水)、北海道医療大学は、由仁町と包括連携協定を締結いたしました。

今回の協定は、由仁町と北海道医療大学とが包括的な連携のもと、相互の資源を活用した連携を強化することを目的として締結されたものです。人的・知的資源の交流をはかるとともに物的資源を活用し、協力して地域貢献を目指します。今後、本連携協定に基づく各種の連携事業を実施してまいります。事業実施が決まり次第、ホームページ等で詳細をお知らせいたします。

なお、本学と地方自治体との連携協定締結は当別町、滝川市、苫小牧市、浜頓別町、北広島市に続き6件目となります。

04

札幌刑務所精神障害受刑者処遇・社会復帰支援モデル事業に関する協定が締結されました

2024年4月22日(月)、札幌刑務所における精神障害受刑者処遇・社会復帰支援モデル事業に関して、北海道大学病院附属司法精神医療センター、矯正局、矯正研修所及び札幌刑務所の4者が、それぞれ連携協定を締結するにあたり、協定書締結式と関係者への内覧会が行われました。本学は外部協力機関となっており、来賓として、三国久美学長、社会福祉法人浦河べてるの家理事長で本学福祉マネジメント学科の向谷地生良特任教授、外部協力者として、福祉マネジメント学科の橋本菊次郎教授、奥田かおり講師、鈴木和助教、そして外部協力者で北海道作業療法士会から会長・事務局長とともに本学作業療法学科の浅野葉子講師が出席しました。



PICK UP

2028年、新キャンパスへ。

札幌あいの里
キャンパス
(札幌市)
学部(医療技術)、
大学院、大学病院

当別キャンパス
(石狩郡当別町)

学部(薬、歯、看護福祉、心理科学、リハビリテーション科学)、
大学院、専門学校、実習施設、
歯科クリニック

札幌サテライト
キャンパス
(札幌市)

2028年
移転

北海道ボールパーク
Fビル内(北広島市)

キャンパス名未定

全学部、大学院、大学病院、専門学校、実習施設

※薬用植物園、グラウンド等、一部施設は当別キャンパスに維持予定

本学は昨年10月に北広島市と、株式会社ファイターズスポーツ＆エンターテイメントとともに、北海道ボールパークFビル内を予定地とする大学キャンパス・病院新設などの計画について、三者基本合意を締結いたしました。この合意に基づき、医療とスポーツの連携強化による健康増進など、地域づくりに携わっていく予定です。今まで当別町や札幌市あいの里地区で行っていた地域との関わりは継続しつつ、北広島市など新たな地域とも連携していく予定です。学生の皆さんがのびのびと勉強や学友会活動に取り組めるように、そして多職種連携教育のさらなる強化・拡充に向けて教学、施設設備、地域連携、女性活躍、医療機関など、さまざまなプロジェクトチームが立ち上がりつつあります。

地域貢献活動・職業体験イベント

5月

May

医療職体験ビレッジ～見る知る 薬剤師・歯科医師・歯科衛生士～

2024年5月12日(日)、札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)にて、職業体験イベントを開催しました。小学生・中学生・高校生向けの体験コンテンツと、一般の方向けにお薬やお口の相談コーナーを設置。北海道薬剤師会・札幌薬剤師会・北海道歯科医師会・北海道歯科衛生士会の後援のもと企画しました。ご参加いただいた方は100名を超え、本学や薬剤師・歯科医師・歯科衛生士の職業について、多くの方々に知っていただく機会となりました。

7月
July

病院ではたらく 福祉のしごと体験講座

2024年7月21日(日)、北海道医療大学病院にて、医療ソーシャルワーカー(MSW)に焦点を当てた体験講座を開催しました。グループワークで相談援助の仕事を学び、多職種から情報を収集する体験など、病院内でのチーム医療の一部を体験できるプログラムです。本講座は、福祉マネジメント学科の在学生が中心となって企画。一般社団法人北海道医療ソーシャルワーカー協会、福祉マネジメント学科同窓会からも後援を受け、今年で開催6年目です。

8月
August

薬学部特別イベント 薬剤師を体験しようin青森

2024年8月10日(土)、青森県青森市のアーガ(青森市男女共同参画プラザカーナー)にて、薬学部の高校生対象の特別イベントを開催しました。参加者には白衣を着てもらい、薬剤師が行うさまざまな調剤体験や科学実験を楽しんでいただきました。また、薬学研究に関するポスター・生薬展示、青森県出身の在学生や教員との懇談も実施。高校生に加えて中学生にも参加していただき、薬剤師のお仕事や薬学部の学びを知っていただく機会となりました。

9月
September

サツドラFES 2024

2024年9月21日(土)・22日(日)、つどーむにて開催された「サツドラFES 2024」の子ども体験ブースに本学が参加しました。参加者には白衣を着用してもらい、歯科医師のお仕事体験として、人工歯を使った虫歯治療体験や指の印象採得を体験していただきました。さらに、21日(土)は言語聴覚士、22日(日)は歯科衛生士の仕事体験も実施。2日間の参加者は450人を超え、本学でめざすことができる職種の一部を体験していただきました。

8月
August

ことば・記憶・聴力を診る 言語聴覚士体験イベント

8月24日(土)、北海道医療大学病院にて、言語聴覚士体験イベントを開催しました。言語聴覚療法学科の教員5名と、4年生10名が、北海道医療大学病院の耳鼻科外来と言語聴覚治療室を舞台に、患者さんが病院を受診する場面から、言語聴覚士が実際に検査と評価までの流れを通して、言語聴覚士のお仕事を体験していただく企画を実施。今回のイベントでは参加定員を設け、高校生13名と保護者7名の合計20名にご参加いただきました。

9月
September

病院ではたらく 相談のしごと体験講座in室蘭

2024年9月21日(土)、室蘭にて、本年度2回目の「病院ではたらく福祉のしごと体験講座」を開催しました。社会医療法人母恋日鋼記念病院の協力のもと、看護福祉学部福祉マネジメント学科が主催(後援:一般社団法人北海道医療ソーシャルワーカー協会、福祉マネジメント学科同窓会)。福祉マネジメント学科の在学生が中心となり、社会医療法人母恋日鋼記念病院の医療ソーシャルワーカー(MSW)と一緒に運営した企画です。胎児からお年寄り、遺族までをも対象にする幸せづくりの専門家であるMSWが大切にしている価値と、参加者や在学生の視点が重なり合い、いのちの重さとMSW支援の可能性を感じることのできる体験講座となりました。

10月
October

ジョブフェスinきたひろ

2024年10月19日(土)、北広島市総合体育館にて開催された「ジョブフェスinきたひろ」の職業体験ブースに本学が参加しました。北広島市との連携事業の一環として、小学生から高校生までの参加者を対象に、アロマスプレーづくりや軟膏調剤体験、虫歯治療体験や指の印象採得体験を実施。薬剤師・歯科医師・歯科衛生士のお仕事を知ってもらう機会となりました。

11月
November

医療職体験ビレッジ ～薬剤師のお仕事を知ろう～

2024年11月23日(土・祝)、紀伊國屋書店札幌本店1階インナーガーデンにて、本学薬学部同窓会主催の職業紹介イベントを開催しました。「薬剤師の頭の中」と題した寸劇、お菓子を使った分包体験、アロマオイルを使ったアロマスプレーづくりなどさまざまなコンテンツを用意し、小学生やその保護者の方、薬剤師に興味のある一般の方まで幅広い世代の方々にご参加いただきました。



12月
December

医療職体験ビレッジ～【函館版】 見る知る薬剤師・歯科医師～

2024年12月21日(土)、函館蔦屋書店にて、薬剤師や歯科医師の職業紹介イベントを開催しました。当日は小学生から高校生まで多くの参加者に、薬剤師や歯科医師のお仕事を体験していただきました。薬剤師の体験では、お菓子を使った分包体験、アロマオイルを使ったアロマスプレーづくりを、歯科医師の体験では、義歯を使った虫歯の治療体験を実施。このイベントは、本学薬学部同窓会が中心となって企画。歯学部同窓会・本学教員・在学生に加え、函館市で現役の薬剤師・歯科医師として活躍する卒業生、連携協定校である遺愛女子中学校・高等学校の生徒さん3名にも、スタッフとしてご協力いただきました。



12月
December

医療職体験ビレッジ ～見る知る医療・福祉のお仕事を～

2024年12月26日(木)、札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)にて、医療・福祉の職業を紹介するイベントを開催しました。本学の教職員・在学生113名と、連携協定校である北海高等学校の生徒さん16人に高校生ボランティアとして参加していただき、総勢129名のスタッフで全12ブースを設置。本学でめざすことのできる職業のお仕事体験、物理・化学を応用した科学実験コーナー、大学の様子を疑似体験できるVRコーナーを用意しました。イベント開始前には受付に並ぶ列ができており、参加者からは楽しかったという声をたくさんいただきました。平日にもかかわらず、参加者数は300人弱という盛況なイベントとなりました。

1月
January

1日歯医者さんを 当別キャンパスで開催

2025年1月14日(火)、本学当別キャンパスにて、小学生を対象とした「1日歯医者さん」を開催しました。毎年当別町教育委員会と共催共催しているイベントです。小学生限定で、模型を使った虫歯の治療などを体験し、歯やお口に関するクイズでその日の体験を振り返ることができます。今回は17名の参加者が、白衣を着て歯医者さんのお仕事を体験しました。

遺愛女子中学校・高等学校(函館市)との 高大接続に関する連携協定を締結しました

2024年11月7日(木)、遺愛女子中学校・高等学校と高大接続に関する連携協定を締結いたしました。同校からは多くの卒業生が本学に進学しており、本学卒業後は保健・医療・福祉を中心に幅広い分野で活躍されています。

締結式は函館市内の同校講堂で執り行われ、三国久美学長と福島基輝校長の署名により協定が締結されました。今回の連携項目には、相互の教育活動の支援や共同研究、施設の共同利用などの内容が盛り込まれており、相互の強みを生かした取り組みをすすめることとしています。具体的な事業は今後検討をすすめる予定ですが、同校生の大学キャンパス訪問、大学の学びに触れるオンライン授業、探求学習におけるサポートなどを構想しています。連携による取り組みを通じて、保健・医療・福祉を担う人材の拡大を図ってまいります。

なお、本学が高等学校と連携協定を締結するのは14校目、道南地区では初めてとなります。

「高大連携協定」締結式 北海道医療大学 遺愛女子中学校・高等学校 >



学生の活動について

TOPICS 01

陸上競技部・剣道部 優勝報告会兼壮行会が行われました

課外活動において、優秀な成績を収めた2団体による報告会兼壮行会が行われました。陸上競技部に所属する水口爽さん(看護学科3年)は第46回北日本学生陸上競技対校選手権大会(北日本インカレ)の女子三段跳びに出場し、自己ベストとなる12m06の記録を残し、見事準優勝を果たしました。その後、9月に行われた天皇賜杯 第93回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)にも出場し、全国の猛者達と競い合いました。剣道部 女子団体として第49回北海道女子学生剣道優勝大会に出場した、中野湖宵さん(理学療法学科4年)、岡本彩愛さん(歯学科3年)、井澤碧さん(看護学科1年)、小林茅峯さん(理学療法学科1年)、原口真緒さん(言語聴覚療法学科1年)は、同団体として初めてとなる優勝を収め、11月に愛知県にて開催された第43回全日本女子学生剣道優勝大会に出場しました。両団体の学生は日ごろ忙しい学業の合間を縫って研鑽を積み重ね、スポーツの分野でも素晴らしい成績を収めたことを学長・副学長へ報告し、労いと激励のお言葉をいただきました。今後も学生たちの更なる活躍が期待されます。



TOPICS 02

第3期当別町こども・子育て支援事業計画の策定に学生副学長(SCP)が参加しました

当別町教育委員会が主催している「当別町TOWNミーティング」に心理科学部SCP福田優心さんが参加しました。町内の小・中・高校に通う生徒や児童らと協力して、当別町が2025年度から推進する予定の子供計画の策定に対する意見をまとめ、ポスター発表を行いました。当別町のこれから子育て支援施策に対して、大学生ならではの意見を述べるだけでなく、計画名に関して福田さんの意見が一部採用され「とうべつこどもHIRARI(ひらり)計画～こどもの未来のために～」と命名されました。

TOPICS 03

学生副学長(SCP)×北海道医療大学後援会コラボ「応援メシ」

2025年1月20日(月)～1月31日(金)の2週間、定期試験、国家試験の勉強に励む学生に向けて「おにぎり弁当」を無料で提供しました。SCPと後援会のコラボによる「応援メシ」は、2023年から実施し、今年で2回目となりました。学内で自習する学生や自宅で頑張る学生をサポートしたいという同窓生の想いが繋がっているようです。

TOPICS 04

「口腔ケアアンバサダー」認定資格試験の結果について

2024年10月1日(火)、薬学部の学生(希望者)を対象に、本学では第3回となる口腔ケアアンバサダー認定資格試験を行いました。この試験は、日本口腔ケア学会薬剤師部会の評議員が在籍している大学に対する特例措置で実施できるものとされ、本学講師がその評議員を務めていることから、2023年3月から実施しており、今回の試験では43名の受験者が合格となりました。12月9日(月)、認定証の授与式を行い、浜上薬学部長から、合格者一人一人に認定証が手渡されました。今後の薬剤師としての活躍の中でその資格が活かされることを願う旨の祝辞が述べられました。この資格は、履歴書にも記載できるものであり、日本口腔ケア学会の準会員としての登録も可能です。今年度は3月にも試験を実施予定であり、多くの学生が受験に挑戦してくれることを期待しています。



TOPICS 01

2024年10月1日 韓国に事務所を開設しました

薬学部・歯学部を中心に、韓国人留学生の入学が増えており、2024年度は60名以上が在籍しています。2024年10月1日(火)、入国前のサポートから在学中・卒業までの一貫したサポート体制の構築、韓国国内での学生募集広報の強化などを目的に、韓国忠清南道天安市に韓国事務所を開設しました。



TOPICS 02

2024年度 海外協定校への学生派遣について

2024年度3月に本学が大学(学部)間学術交流協定を締結する海外の大学・機関において、相互交流プログラムに基づき、「海外短期研修」として学生を派遣します。また、今後、各海外協定校から本学への学生派遣が行われる予定です。

■ 海外協定校への派遣人数 ■	
国立ルブリン医科大学(ポーランド)	5名
台北医学大学(台湾)	4名
チュラロンコン大学(タイ)	3名
イエテボリ大学(スウェーデン)	5名
リッチモンド大学(アメリカ)	3名
キョンヒ大学(韓国)	1名
チュラロンコン大学・マヒドン大学(タイ)	1名
チューリンゲン病院(ドイツ)	2名

ポラリス基金のご案内

本学を支えてくださる皆さまへ

1974年に創立した北海道医療大学は、2024年に50周年を迎えました。

創立以来、たくさんの皆さまに支えられ、

保健・医療・福祉の連携統合をめざす創造的な教育の推進、確かな知識・技術と

幅広い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人の育成に努めて、

現在では2万4千名を超える卒業生を輩出しています。

次の50年に向けて、本学を支えていただく皆さまとともにこれからも邁進する所存です。

より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



一般寄付

卒業生の応援を目的に卒業生が携わっている企業の商品や、

連携協定を締結している自治体の応援を目的とした自治体ゆかりの商品など様々な返礼品をご用意しています。

寄付金額 10,000円～

- ・宝永餃子
- ・天然酵母パンセット
- ・亜麻仁油ドレッシング など

寄付金額 30,000円～

- ・スマーカーサーモン切落とし
- ・しゃぶしゃぶセット
- ・北海道トイレットロール など

寄付金額 20,000円～

- ・味付けラム肉食べ比べ
- ・滝川クラフトビール
- ・創立50周年記念ワイン など

寄付金額 50,000円～

- ・ななつぼし(精米10kg)



特定の研究者・研究室等へのご支援

各研究室(教員)・研究プロジェクトなど、ご指定いただいた研究活動に活用させていただきます。

次世代を担っていく研究者の育成のために、皆様からのご支援をお願い申し上げます。

※返礼品はございません。返礼品をご希望の場合は「一般寄付」をご確認ください。

寄付のしかた

インターネットによるお申し込み (クレジットカード・コンビニエンスストア・Pay-easy)

パソコン、スマートフォンなどからアクセスし、煩雑な手続きを経ずご寄付いただけます。なお、インターネットによるお申し込みは、学園が寄付の決済代行を委託している株式会社エフレジの「F-REGI寄付支払い」を利用したお手続きとなります。



スマートフォンからのご寄付の
お申し込みはこちら
polaris.hoku-ryo-u.ac.jp/



銀行振込によるお申し込み

金融機関ATMやネットバンキング、銀行窓口からご寄付いただけます。寄付申込書をダウンロードするボタンから寄付申込書を印刷し、必要事項をご記入のうえ、以下の問い合わせ先まで郵送またはEメールでお送りください。なお、電話連絡いただきましたら、郵送にて寄付申込書をお届けします。

税制上の優遇措置

個人、法人を問わず、寄付者の皆様には寄付金額に応じて寄付金控除を受けることができます。詳細は、ホームページ左側の「税制上の優遇措置」からご確認ください。

Message

定年を迎える先生からのメッセージ



歯学部
教授
越智 守生

「1978～2025年に感謝!!」

私は1978年東日本学園大学歯学部1期生として入学し、1984年に大学を卒業後坂口邦彦教授の歯科補綴学第II講座に助手として入局し、坂口教授と非常勤講師の三嶋顕先生にご指導を受けてインプラントの臨床と研究を行ってきました。1987年には三嶋先生と共にイエテボリ大学プローネマルククリニックで研修を受け、1988年に本学大学院歯学研究科1期生として入学しました。私のインプラント治療はプレードインプラントから始まりましたが、口腔インプラントはプローネマルクシミュレーターがチタン製ルートフォーム型インプラントを製品化した後、技術革新と研究の進歩により、今日の形となりました。また、診断技術では、CTの普及により顎骨の三次元的な形態計測や骨質の評価が可能になりました。また、3Dプリンターで製作されたサージカルガイドプレートにより、シミュレーションに基づいたインプラント治療が日常臨床で可能になりました。これら「DIGITAL Dentistry」の導入により、インプラント治療の検査、診断、治療精度が大幅に向上しました。

私の歯科医師としてのキャリアは40年を超え、インプラント治療の技術革新も続いている。最近のトレンドである「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」は、ICTの浸透により人々の生活をより良い方向に変革することを意味

しています。歯科分野でも、口腔内スキャナーや技工用スキャナー、ミリングマシンなどのCAD/CAM技術が成熟し、DX推進の突破口が見えてきました。

本学での活動を振り返ると、教授就任後は教務部や学生部の副部長を歴任し、その後学生部長として学生生活に寄り添った指導を行いました。1期生として学業や学外活動、部活動での経験が役立っていると考えています。また、総合図書館長という名誉ある職も拝命し、微力ながら本学の発展に貢献できました。教授の任期中、至らぬ点も多々ありました、多くの教員、同窓・同門の先生方、学生、保護者の皆様の温かい支えにより任期を全うできましたことに感謝しています。

北海道医療大学は2028年4月に、北海道北広島市のエスコンフィールド内に新キャンパスを増設する計画があります。本学設立から50周年を迎える2024年を契機に、新キャンパス増設の計画が前進し、大学は大きな変革を迎えることになります。これまで50年弱本学に携わった者としては、この大きな変革に立ち会えぬことは寂しい気持ちもございますが、後進に未来を託しこれからのさらなる発展を祈念して、私の退任挨拶とさせていただきます。



歯学部
教授
三浦 宏子

「北海道医療大学での“12+5年間”を振り返って」

本学歯学部の2期生として1985年3月に卒業し、1985年4月に本学で研究教育職としてスタートを切りました。その後、国内外の教育・研究機関で経験を積み、2020年に再び母校に戻ることとなりました。研究教育職としての終盤を、再び母校で過ごすことの素晴らしさを深く感じております。最初の約12年間は、研究教育職の礎を形成する過程であり、大変多くの先生方にお世話になりました。そして、四半世紀の時を経て、本学に戻ってからは、これまでのキャリアで得た経験や知見を母校のために役立てたいとの思いで活動してきました。2020年に着任した時はコロナ禍の最中であり、大学での授業のあり方を再考する試練の時でもありました。助手・講師としての12年間に加えて、教授としての5年間は、私の人生において大きな意味を持つ時間でした。多くの方々に支えられながら、口腔保健学の発展に向けた研究教育活動を続けてこられたことを、心から感謝しております。

私の専門である口腔保健学は、歯科だけにとどまらず、地域での健康づくり対策の全体と大きな関わりを持ちます。そのため、地域住民の方々、自治体、歯科医療関係者、保健・福祉の専門職の皆さんと共に課題を共有し、エビデ

ンスに基づく歯・口腔の健康づくりに役立つ研究を推進することが求められます。本学での教育においても歯科の専門性を活かしながら、地域に貢献できる力を養うことの重要性を、授業を通して伝えてきましたつもりです。

超高齢社会を迎えたわが国において、地域での歯科保健医療対策は大きな岐路に立っています。地域で暮らす人々が、生涯にわたって健やかに過ごすためには、ニーズに見合った歯科保健対策を提供するシステムづくりが必要です。北海道という広大な地域において、歯科保健活動を展開する難しさと同時に、その可能性の大きさを実感する機会も多くありました。地域ごとの特性に応じた歯科保健医療の在り方、住民の皆さんとの信頼関係の築き方、行政や他職種との連携と共創の重要性など、学ぶことは尽きませんでした。

このような貴重な経験を積むことができたのも、本学の教職員の皆さん、学生の皆さん、地域の方々との出会いがあったからこそです。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。そして、北海道医療大学がこれからも地域に根ざし、未来の歯科保健医療を担う人材を育成し続けることを心より願っております。



看護福祉学部
教授
竹生 礼子

「在宅看護と看護師の自律性・創造性を重視した教育に従事できたことに感謝」

定年を迎えるにあたり、これまでのキャリアと大学との出会い、そして看護に対する感謝の思いを伝えたいと思います。看護と大学に出会い、過ごしてきたプロセスを振り返りたいと思います。

私は、看護に対する知識も動機も薄く、資格をとりたい程度の曖昧な進路の選択で千葉大学に入学しました。クラスメイトとは意欲の面で格差がありました。が、なんとか1982年に大学を卒業し、病院の看護師として社会人をスタートさせました。入職当初は職務継続が心配されるほどの新卒看護師でしたが、患者さんが懸命に病と暮らしに向き合う姿から学び、自分の傲慢さを捨てることができました。病棟での研究活動を通じて、退院した患者さんを訪問し、生活の様子を捉えることで、自分たちのケアの効果と課題を振りかえりました。この経験は、私の人生の基盤を築いた在宅看護と出会いう重要なものとなりました。また、今の大学生を見つめる目と自分が苦しんだ看護学生・新人看護師時代が重なり、「看護を続けることで、看護が自分の人生を助けてくれる」とエールを続ける基礎的体験となりました。

1996年に家族と共に千葉県から札幌市に移住を決め、地域に根ざした生活と仕事を追求しました。転居後は、10年間にわたり緩和ケアと在宅看

護の実践を行い、訪問看護の経験を通じ、人々が住み慣れた住まいで自由に暮らしていくための看護の意義や責任について痛感しました。

2006年に縁あって本学の教員となり、看護学生を教える職をいただきました。益々人々の暮らしと健康を支える看護の魅力に心酔し、「地域で暮らす人々のQOL向上を探求する在宅看護」を懸命に学生に伝えました。本校は、とことん学生中心、対象者中心を貫いて教育していく大学であり、その理念に深く共感しながら教育にあたることが出来ました。学生の思考する力、看護師の自律性・創造性を重視していることを教員間で共有しました。また、大学の研究や社会貢献活動に参加することで、実践的な現場にも触れられる充実した毎日を過ごすことができました。

これまでのキャリアを振り返ると、数々の出会いや経験が私を成長させてくれたことに感謝しています。今後は、これまでの知識や経験を次世代に伝えることを使命とし、新たな挑戦を続けていきたいと考えています。最後に、北海道医療大学がすばらしい後輩を育て続けること、保健医療福祉系の総合大学として益々の発展を続けることを祈念いたします。



リハビリテーション科学部
教授

鎌田 樹寛

「北海道医療大学で定年を迎えたことについて」

私は、1984年3月作業療法士養成校（北海道大学医療技術短期大学部）を卒業しました。国家試験の合格をへて、北海道立緑ヶ丘病院（十勝）に入職となり、臨床家として19年間歩んで来ました。様々な先輩や後輩（医療専門職）の方々と一緒に仕事をさせていただき、作業療法士としてのキャリアを積められたことは、時には辛いことや情けない経験もしましたが、今となってはよい思い出であり、とても幸せな気持ちになります。

養成教育の領域に進んだのは、小泉構造改革の下で少子・高齢化社会の到来を予測された、リハビリテーション専門職養成校の開設ラッシュがきっかけがありました。当時私は43歳にあり、正直これから学位を取ることに対する葛藤を抱えていたのを覚えていますが、元来好奇心が旺盛であったこともあり、“人生に後悔はしたくない”と考え、思い切って飛び込んでみました。専門学校（仙台）や公立大学（横須賀）の教員を務め、2012年より当大学リハビリテーション科学部設置準備室に迎えていただきました。準備室での具体的な業務は、現小島学部長（以下、学部長）はじめ、当時の先生達と教育理念・教育目標と三方針の作成、カリキュラム・シラバスの作成、非常勤講師依頼、臨床実習地契約確保のための訪問出張などであり、朝から晩まで日々の業務に追われてはいましたが、担当者

達は「なんとしても新学部を開設させる」という同じ心意気を持って臨んだ期間であったと思います。その晩秋の頃、第1期生を迎える入学試験（小論文）の採点を学部長と行い終えた帰り道は、“なんとも言えない充実感”に浸っていたことがとても懐かしい思い出です。

あれから現在では、理学・作業療法学科は12期生、言語聴覚療法学科10期生を擁する学生数が最も多い学部となっています。実に誇らしい限りです。今後私たちは、新たな感染症や地球温暖化環境とともに天災などに対応して、生きていかなければなりません。折しもコロナウイルスのまん延がきっかけとなったデジタル技術の正しい活用や人工知能（AI）の活用は、すでに必須アイテムとなりました。大学の将来像を鑑みますと、今後もより一層学生のための学部・学科を基盤にした、「社会に貢献できる教育や研究」が必要と思います。大変微力ながら、もう少しお手伝いができればと考えました。

最後に今年度定年を迎えるにあたり、関係者の皆様への感謝を申し上げ、大学の益々のご発展を祈念いたします。



医療技術学部
教授

幸村 近

「臨床検査に導かれて」

定年を迎えるにあたって皆様に感謝の気持ちを伝えたいと思います。私は北海道医療大学に導いたものは何かと言えば、それは臨床検査です。6学部9学科のうちで最後にできた医療技術学部臨床検査学科の開設に携わる機会をえていただいたことは、私の人生において全くの僥倖でした。ここに至る過程で関わってくれたすべての方々にお礼を申し上げます。

私は1984年に内科医師になりましたので、当然そのときから臨床検査との付き合いがありますが、密に関係を持つようになったのは1994年に旭川医大の検査部に行ってからでした。元々循環器内科医として若い頃はよく急性心筋梗塞の診療をしていました。それで血栓症に強い興味を持ち、研究テーマとして選びました。1990年からのアメリカ留学では血栓溶解薬および併用する抗凝固薬・抗血小板薬の実験的研究に従事しました。帰国後、出身医局に戻って研究の継続を模索していたところ、血小板の膜タンパク質を調べていた臨床検査医学講座に行くよう言われたのです。時間はかかりましたが1999年に臨床検査専門医の資格を取り、次いで血小板機能検査の結果をまとめて医学博士の学位を得ました。

その後絶え間なくはありますが、内科医として勤めた病院の全てで臨床検査部門との関わりが続き、限界に留まっています。そして2016年になり、お説を受けた仕事が北海道医療大学に臨床検査学科を新設するので教員にならないかというものです。実はあまり迷わず決めました。父が教師であったので教職に就くのは自然なことでしたし、新設大学を卒業して新規の立ち上げの仕事の経験があった私は、何か運命的なものを感じたのです。ただ説いてくれた先生がいなくなってしまい、自分が学部長に指名されたのは全くの想定外でした。

2018年に設置準備室に赴任しました。認可が一旦保留になり、11月にずれ込んだときは焦りましたが、何とか入試を終えて2019年に開設に至りました。その後のコロナ禍などを乗り越え、2023年に初の卒業生を送り出すことができたときは胸をなでおろしました。続いて大学院開設も行い、この春修士が誕生します。博士課程のスタートも控えています。そのため特任教授として大学に留まりますが、一区切りとしてご挨拶させていただきました。これまで我々の学科を選んで来てくれた学生達、ともに働いた教職員の方々、私をここに連れて来てくれた人々と運命の縁に感謝します。



薬学部
教授

飯塚 健治



歯学部
助教

尾立 光

以上の諸先生の他、
薬学部 飯塚健治 教授、
歯学部 尾立光 助教が定年を迎えられます。
ありがとうございました。

With heartfelt thanks.



薬学部
同窓会長
桂 正俊

薬学部

薬学部同窓会は6,500名を超える会員が全国各地で活躍しております。現在同窓会の活動は、主にwebを利用した医療薬学セミナーや将来ビジョン講座などを薬剤師支援センターと共に開催しております。また、同窓会会員である在学生に対して、薬剤師国家試験対策講習会の追加や国家試験に向けての勉強が本格化する5年生に対して6年生の講義でも用いる薬剤師国家試験参考書(薬学セミナー発行の青本)の補助など様々な支援を行っております。また、昨年度5年ぶりに「卒業生・在学生合同懇親会」を開催し、卒業後の進路相談をはじめ就職後に必要なスキルを若い先輩からの助言を受ける機会を設けることができました。

一方、全国17支部(道内7、道外10)と医療薬学セミナーやその地域での薬業や医療に関する情報交換を行っているところです。昨年度は全国の会員を対象とした拡大研修

〈創立年:1979年 会員数:6,765名〉

会及び埼玉県さいたま市で開催された第57回日本薬剤師会学術講演会に合わせて同窓会の懇親会を開催する事ができました。また、昨年は本主催の「医療職体験ビレッジ」への支援を行い、札幌駅前地下歩行空間や紀伊國屋書店札幌支店そして函館蔦屋書店など薬剤師の仕事を道民に伝えるブースを設置しました。

薬学部同窓会は会員数の増加により、道内支部の細分化と道外の卒業生が減少していることから本州支部の統合やブロック化を含めて現在進めております。

■<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~phalumni/>
■yaku-dousoukai@hoku-iryo-u.ac.jp

歯学部
同窓会長
蓑輪 隆宏

歯学部

平素は歯学部同窓会活動に際し、深いご理解と多大なるご協力誠にありがとうございます。お陰様で本会は昨年秋、設立40周年の節目を迎えることが出来ました。加えて、41期生が社会に羽ばたき47期生を母校に準会員として迎えることが出来ましたこと、大変嬉しい存じます。

1984(昭和59)年、108名で産声を上げた本会も今では全国に26の支部が存在し3,600名以上の卒業生が各地域、各分野で活躍するまでになりました。

歯学部同窓会本部の活動としては、会誌の発行、ホームページ、メーリングリストでの情報の共有、各支部の会員の皆様との親睦そして学術向上を兼ねた歯科臨床セミナーの開催、学生への応援講義、学生海外短期研修の金銭的補助、補講補習の補助、国家試験の応援、若手教職員への同窓会賞授与、さらには今年は学生の学外実習の受け入れの再開、学生、研修医のヤングフェスタの開催など多岐にわたりっております。また全国各支

〈創立年:1984年 会員数:3,382名〉

部ごとに独自の活動を続けています。

母校においては、次の50年を見据えた時、ボルバーケFビレッジにキャンパス移転という大決断を下したことは、同窓会としてとても価値あること認識しております。そして、この決断が正しかったこと明言出来るためには卒業生一人ひとりが日々、本来の目的に則った活動をしつつ成果を積み重ね、有形無形にかかわらず、物心共に協力が必要であります。本会もその核の一つとなって努力して参る決意でございます。関係各位の皆様におかれまして今まで以上のご支援、ご助言を頂ければ幸いです。皆様、どうぞ宜しくお願い致します。

■<http://www.hoku-iryo-u.com/> ■dousoukai-honbu@clock.ocn.ne.jp
■事務局 札幌市北区北6条西6丁目2-11 第3山崎ビル4F
TEL 011-299-9069 FAX 011-299-9609

看護学科
同窓会長
川村 武昭

看護福祉学部／看護学科・札幌医療福祉専門学校／看護学科

平素より同窓会活動については、格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。おかげさまで本会の活動も令和9年(2027年)で30周年を迎える運びとなりました。偏に日頃から御尽力をいただいている同窓生の皆様をはじめ、各学部学科の同窓会役員の皆様、そして大学関係者の皆様の協力の賜です。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

さて、今年度は大学創立50周年を迎えたとともに、同窓会の大先輩である歯学部同窓会様が設立40周年を迎えた大変記念すべき年でした。8月31日(土)に開催された大学創立50周年記念講演会には、当日の悪天候のために残念ながら出席できませんでしたが、10月19日(土)に開催された歯学部同窓会設立40周年記念式典・記念祝賀会には出席させていただくことができ、改めて同窓会活動は大学内外の関係者だけではなく、様々な方たちとの一つ一つつながりの結実なのだと実感したところです。現在、当同窓会の会員は約3,200名を数え、全国各地の保健・医療・福祉・教育をはじめとした様々な現場で活躍しています。今、同窓会として協議していることは、卒業した後も当時の同級生や先生たちと最近の状況や思いなどを双方向でやり取りができる場、誰でも戻って来られる場を将来に残していくための作戦です。社会や時代の移り変わりとともに、人と人とのつながり方やその望む形は大きく変わりましたが、私たちがいつも誰かの支えを必要と

〈創立年:1997年 会員数:約3,200名〉

し、また同時に、誰かを支えられる希少な存在であることに変わりはないと思っています。一人一人の存在が、どこかにいる誰かの心の支えや何かのきっかけになると思っています。同窓会活動は卒業生たちによる卒業生たちや私たちをこの世界に送り出してくれた先生、そして学び舎をつないでいく活動として、私たちの誰かの日々の挑戦や悩み、思いが、誰かにとってのモチベーションや支えになるように、そして、北海道医療大学で過ごした学生生活を思い出し、大学と自身とのつながりを振り返る機会を通じて新たなつながりをつくることが、これから大学の発展につながるのではと考えています。

私たち卒業生一人一人の活躍が大学の今後の益々の発展につながることを願い、私たち同窓会はその仕組みを考え続けていきたいと思っています。それが同窓会として、卒業生として、先生や大学にできる恩返しであり、また、私たちがつながりあえる「糸」なのだと思うところです。

令和9年に控える同窓会設立30周年を一つの節目として目標を達成できるよう、同窓会活動の目的や意義を確かめ合いながら活動していきたいと考えております。これからもどうぞ福慧会をよろしくお願い致します。

■<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~kango/> ■kango@hoku-iryo-u.ac.jp

福祉マネジメント学科
同窓会長
小畠 友希

看護福祉学部／福祉マネジメント学科・札幌医療福祉専門学校／介護福祉学科

平素より福祉・介護同窓会活動にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。

福祉・介護の仕事は人とかかわることで成り立ち、人が幸せに生きていくことにかかわる仕事だと思います。そして、それを学んだ仲間同士の集団である同窓会の役割には、つなげる、つながる活動があります。2024年は魅力あふれる福祉の仕事を、小・中・高生に知つてもらう体験講座に、同窓会としても協力させていただきました。「病院で働く福祉のしごと体験講座」が7月に札幌、9月に室蘭で開催されました。12月のチカホで行われた「医療職体験ビレッジ」でも多くの学生、保護者の方に、見る、乗る、感じる、バリアフリーの世界を体験いただき、医療職について知り、興味をもつきっかけになったのではないかと思います。8月の「大学へいこう～1日大学生～」は、社会的養護環境下の児童を対象に、大学の雰囲気を体験する機会を設け、高校や大学への進学を考える動機付けにつながること

〈創立年:2000年 会員数:約2,300名〉

を期待する活動に、同窓会としても協力させていただきました。各企画運営には学部生もボランティアで協力し、座学では得られない学びになったということです。また、当別キャンパスを会場に開催された第9回北海道地区高校生介護技術コンテストの競技後、各校の生徒さん同士の交流の場を提供させていただきました。

5月は看護学科同窓会との合同開催の同窓会セミナー、3月には他学部同窓会とのコラボ講演の企画運営にも継続して関わらせてもらっています。今後も、人と人、人と福祉、人と大学をつなげる、つながることに微力ながら尽力してまいりたいと思います。皆様ご指導ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

■<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~fukudo/> ■fukudo@hoku-iryo-u.ac.jp

臨床心理学科
同窓会長
上河邊 力

心理科学部／臨床心理学科

同窓会では、本年度も同窓会セミナーの開催や在校生向け進路相談会、新入生歓迎会の開催を継続実施しています。昨年度に引き続き、同窓会セミナーに関してはオンラインと対面によるハイブリッドとし、全2回のセミナーに100名以上の方がご参加くださいました。コロナ禍にオンラインでの研修に慣れていた方が多いせいか、昨年は対面での参加者が少ない傾向にありました。今年度は対面での参加者もコロナ禍以前の水準に近いところまで回復してきました。同窓会セミナーの後には親睦会も開催し、同窓生同士のつながりも深める機会になりました。毎回、在学生の方も参加してくださり、既に現場で働く先輩方にたくさん質問し、学びを得ている姿も見られます。また、今年度は大学の講義室を貸し切って、対面での新入生歓迎会を開催するという新たな取り組みもありました。新入生、在学生、教職員の皆さんのが大勢参加し、心理学にまつわる謎解きにチームで取り組んで

〈創立年:2006年 会員数:約780名〉

親睦を深めたり、食事を楽しんだりしました。新入生の皆さんにも大変好評でしたので、来年度以降も継続して実施していく予定です。入学後、早い段階での大学生活への適応をサポートすることで、同窓会としても休学や退学といったリスクの軽減に貢献できればと考えています。

最後に、当同窓会へ引き続きご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。なお、同窓会公式LINEアカウントへの登録がお済みでない同窓生の方は、この機会に是非ご連絡ください。

■<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~p.dousou/>
■shinri.dousoukai@gmail.com

リハビリテーション科学部／理学療法学科
同窓会長
白幡 吏矩

リハビリテーション科学部／理学療法学科

平素より理学療法学科同窓会の活動にご理解ご協力ください、誠にありがとうございます。日頃から活動に対して積極的にご協力頂いている本会役員をはじめ、他学部同窓会の皆様、本学関係者の皆様には改めて御礼申し上げます。

本会は2025年9月に、設立から9年目を迎えます。本会開設時より開催している同窓会セミナーを今まで3回開催し、市民公開講座として開催された第19回セミナーでは290名を超える申し込みがあり、大変好評をいただきました。また、卒業生や理学療法学科教員の皆様にご協力をいただき、学術支援事業、臨床のお悩み相談会、有志による勉強会、日本理学療法士協会の卒後研修制度への支援、卒業研究発表会への賞の提供など、卒業生ならびに在学生の日々の活動を後押すべく、新たな事業を打ち出して参りました。最近では、本会の活動を通して生まれた縦の繋がりを感じるエピソードが届くようにな

〈創立年:2017年 会員数:456名〉

り、本会の活動に少しずつ手がえたを感じております。

一方で、ライフスタイルの変化などにより、これまで長きにわたり本会を支えてくださった役員の退任を経験するようになり、新たなメンバーで安定して活動を継続するための体制作りを進めています。2026年、設立10年の節目に向けて、本会会員、今後迎える新たな卒業生たちの卒業後のサポート体制をさらに充実させていくとともに、ささやかながら10周年の節目を会員の皆様と共有する場を準備していく予定です。

引き続き後援会の皆様をはじめ、他学部同窓会の皆様にご指導を頂きながら、本学の発展、本会会員のさらなる活動の一助となるべく活動して参ります。

■<https://iryoudaipt.web.fc2.com/> ■iryoudaipt@gmail.com



作業療法学科
同窓会長
田丸 仁啓

リハビリテーション科学部／作業療法学科

作業療法学科同窓会は、2025年度で開設より9年目を迎えます。設立初年度より顧問である作業療法学科近藤里美教授、他学部同窓会役員の皆様には多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

現在は約280名の同窓会員で活動しており、今後も毎年30~40名増とまだ少ない会員数の期間が続きます。少人数という特徴を活かして密に連携をとりながら、当同窓会が同窓生、在学教員、在学生のつながる場としてあり続け、発展していくことを願っております。昨年11月にはアジア太平洋作業療法学会(APOTC)、日本作業療法学会が札幌で開催され、沢山の同窓生が参加/発表されていました。同窓生の人数も増え、対外的な場で顔を合わせられることに喜びを感じると同時に、各所で活躍されている同窓生を誇りに

〈創立年:2017年 会員数:約280名〉

感じる良い機会となりました。是非今後もそのような同窓生が一人でも増えることを期待し微力ながら支援して参りたいと考えております。

また、当同窓会は2026年度には節目の設立10年目を迎えます。他学科も含めた周年式典等も検討しており、同窓生の皆さんとお祝いできればと存じます。

最後に北海道医療大学後援会の皆様、各同窓会役員の皆様のご理解、ご協力の下に当会の運営が成り立っていますことに深く御礼申し上げます。

■<https://ot40-jp.webnode.jp/>
■hokuiryodai.ot@gmail.com



言語聴覚療法学科
同窓会長

石黒 恵美子

心理科学部・リハビリテーション科学部／言語聴覚療法学科

札幌医療福祉専門学校／言語聴覚療法学科・言語聴覚療法専攻学科

当会は札幌医療福祉専門学校の言語聴覚療法学科の第1期卒業生により設立されました。大学の学部としてスタートしてから更に多くの卒業生を迎え、会員数約1,450名の大きな会になっています。講演会の企画・運営と年に2回の会報の発行を通じ現役生・卒業生の皆様への情報提供を行ってきました。今後も、同窓会セミナーの開催等を通して、会員の皆様のお役に立てるよう活動を予定しています。

他学部同窓会と毎年3月に合同開催している講演会「口から食べられる理想に向かって」は今年で第18弾となりました。言語聴覚療法学科の同窓会で始まった講演会のテーマでしたが、歯学部をはじめ多くの同窓会役員の皆様と歩みを共にするようになり、長く続く

〈創立年:1994年 会員数:約1,450名〉

講演会となりました。このような横の繋がりを活かしての活動は、北海道医療大学ならではの特徴かと存じます。道内外の様々な先生方を講師にお迎えし、毎年多くの皆様より好評をいただいております。これも同窓会の運営に関し、日頃より後援会の皆様・内外の先生方のご理解・ご協力をいただいているおかげです。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

今後も、同窓会会員の皆様はもちろんのこと、地域の皆様、大学の発展のためにお役に立てるよう、役員一同努力して参ります。

■st-kai@hoku-iryo-u.ac.jp



臨床検査学科
同窓会長
古高 裕導

医療技術学部／臨床検査学科

平素より医療技術学部同窓会の活動にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。医療技術学部では昨年の春、2期生が北海道医療大学を卒業し、1期生・2期生とともに北海道を中心とした各地で活躍しております。そして今年の春、3期生が臨床検査技師として新たに社会へ羽ばたくことをとても嬉しく思っております。

本会は2025年4月に設立から3年目を迎えます。今年度は卒後教育支援の一環として、細胞検査士資格取得にむけた勉強会やオンラインセミナーを開催してきました。また、実際の試験を想定した病理標本の鏡検やスクリーニング検査の模擬練習を、札幌あいの里キャンパスで開催しました。来年度はさらに同窓生の要望に応え、エコー検査初心者

〈創立年:2023年 会員数:約140名〉

を対象としたミニレクチャーや、本学にあるファントムなどの実機を用いたハンズオンセミナーを企画・予定しております。その他にも認定資格取得へ向けた勉強会や、最新の臨床検査をテーマとしたセミナーなど、より充実した学べる環境を整備し、北海道医療大学からより良い臨床検査を広げていただけるよう活動して参ります。また、来年度には1期生から3期生合同で同窓会総会、ならびに懇親会を開催する準備を進めております。

本会はまだ発展途中的同窓会ですが、3期生の皆さんが加わることでより活発な会にして行けることを楽しみにしています。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

北海道医療大学同窓会支部等連絡先

■薬学部

支部名	支部長(期)
札幌支部	多田 正人(4)
道北支部	沼野 達行(10)
十勝支部	石原 敦(3)
道南支部	吉田 元(12)
釧根支部	羽田野 貴志(11)
オホーツク支部	森谷 俊憲(13)
日胆支部	寺口 元(6)
青森支部	三上 章(1)
栃木支部	豊住 誠臣(17)
茨城支部	青木 邦子(4)
北越支部*	杉本 雅規(3)
神奈川県支部	肥後 保仁(7)
東海支部	高尾 信彦(2)
関西支部	山口 和俊(9)
中四国支部	黒長 正明(9)
九州支部	山田 昌人(3)
沖縄支部	村田 成夫(4)

*北越支部 支部長代理

■歯学部

支部名	支部長(期)	連絡先
北海道支部連合会	佐藤 明理(4)	医療法人社団明雄会そのまち歯科 ☎011-387-8811
青森県支部	佐藤 孝治(2)	佐藤歯科医院 ☎0172-36-0412
岩手県支部	高野 玄(18)	高野歯科クリニック ☎0197-23-2488
宮城県支部	郷家 道彦(10)	郷家第二歯科医院 ☎022-223-3306
秋田県支部	石川 承平(14)	いしかわ歯科・矯正歯科 ☎018-887-3988
山形県支部	芳賀 俊和(5)	芳賀歯科医院 ☎0238-84-8107
福島県支部	外島 昭夫(7)	ホワイト歯科医院 ☎024-875-3232
茨城県支部	秦 博文(2)	社会医療法人愛宣会 ひたち医療センター歯科 ☎0294-37-0713
栃木県支部	篠原 澄人(6)	しのはら歯科クリニック ☎0282-82-6656
群馬県支部		
埼玉県支部	青木 聰(7)	あおき歯科医院 ☎049-256-2220
千葉県支部	寺山 功(4)	葉山歯科医院 ☎0471-64-6480
東京都支部	蛇名 勝之(5)	エビナ歯科医院 ☎03-3200-4818

■歯学部

支部名	支部長(期)	連絡先
神奈川県支部	阿部 智彦(2)	阿部歯科医院 ☎045-953-7676
山梨県支部	安田 伸一(13)	やすだデンタルクリニック ☎055-243-8461
長野県支部	小池 文一(2)	小池歯科医院 ☎026-224-1482
新潟県支部	山下 克弥(9)	わかば歯科医院 ☎0258-83-1010
富山県支部	藤川 晃(5)	藤川歯科医院 ☎0764-83-2231
石川県支部	久保 伸一郎(2)	粟津歯科医院 ☎0761-44-4852
愛知県支部	木村 英雄(1)	こめの歯科医院 ☎052-451-1182
京都府支部*	堀内 光一(10)	堀内歯科医院 ☎0774-21-4016
近畿地区	瀧本 智朗(17)	とも歯科医院 ☎06-6654-6831
広島県支部	新谷 宏規(16)	新谷歯科医院 ☎082-285-1007
四国支部	谷本 良司(3)	医療法人谷本歯科医院 ☎0883-42-2069
九州支部	池田 周平(20)	池田歯科 ☎0954-26-8400
沖縄県支部	玉城 均(1)	ながた歯科医院 ☎098-854-1182

*京都府支部 支部長代理

■看護福祉学部

☎0133-23-1211
○看護学科(内線:3641)担当:明野(実践基礎看護学講座)
○福祉マネジメント学科(内線:3708)担当:池森(介護福祉学講座)

■心理科学部・リハビリテーション科学部

☎0133-23-1211 (学務部 心理科学課・リハビリテーション科学課)
○臨床心理学科 ○作業療法学科
○理学療法学科 ○言語聴覚療法学科

〈創立年:1991年 正会員数:約1,340名、準会員:19名、特別会員:8名〉

歯科衛生士はあらゆるライフステージに関わり、あらゆる状況に対応するようになります。う蝕(ムシバ)や歯周病はもちろんのこと、口腔癌、インプラント、摂食嚥下、訪問歯科診療などあらゆる場面で患者さんのQ O Lの向上のために必要な職種となつたのです。

また歯科衛生士は臨床の場のみでなく教育、研究、企業など幅広い範囲で活躍しています。これもひとえに常に社会のニーズに応え教育を行い、その移り変わりをしなやかに受け止め続けてきた先人たちの努力の賜物であると感謝しております。

2025年春には新しい教育を受け、新しい考え方を有する皆様が卒業されます。そんな素敵な皆様をはじめ会員の皆様にとって、より有益な同窓会であるように努力いたします。

■<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~katakuri/> ■okahashi@hoku-iryo-u.ac.jp



歯科衛生士専門学校
同窓会長

梶 美奈子

歯学部附属歯科衛生士専門学校

皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本同窓会の運営に対し、ご理解ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。1991年に既卒者を中心に結成され、ほんの僅かの人数で同窓会がどのようなものか?どんなことをするのか?全くわからぬままスタートした本同窓会も30年の時を重ね会員数は1,300名を超える大所帯となりました。30年を超えて会を無事運営継続できたのも会員の皆様やご家族の皆様のご協力と日々会の運営のために努力を惜しまない理事や代表者、皆様のおかげであると感謝しております。

1948年に修業年限1年制で始まった歯科衛生士の教育年限が2012年度以降64年の時を経て3年以上となりました。時代と共に求められるものが増えて『歯科衛生士』という職業そのものが広く皆様に知られてきたと感じております。歯科医院にいるお姉さん、看護師さん(?)という認識ではなくなつたように思います。

歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会支部連絡先

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 ☎0133-23-1211 (内線:3482) 担当:大山・岡橋

卒業生を対象とした各セミナー・
公開講座に関するお問い合わせ先

学術交流推進部 地域連携課 ☎0133-23-1129 (直通) E-mail:nice@hoku-iryo-u.ac.jp

本学情報センターで開発した「クラフトAI」が、eラーニングアワードの「文部科学大臣賞」および 1EdTech Japan の「特別賞」をダブル受賞しました

2024年11月5日(火)に御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターで「eラーニングアワードフォーラム2024」が開催され、本学情報センターが開発した「クラフトAI」が「文部科学大臣賞」を受賞しました。クラフトAIは、本学情報センターが独自に開発した個性的な人工知能で、講義映像を与えるだけでクラフトAIがオンデマンド教材を生成するサービスです。また、学生の学修をサポートするAIエージェントも創り出し、教員が講義中に発話した内容をもとに、学生の質問に対応したり、回答の参考になる講義映像をピンポイントで見つけ出します。さらに、英語など他(多)言語の発話映像へ変換し、教育の国際化・多様化にも対応させるなど、オンデマンド教材の機能は今も進化を続けています。本サービスは、1EdTech Japan Societyからも、生成AIをいち早く製品に生かし、詳細な実証研究を実施した点が評価され、1EdTech Japan の「特別賞」も同時に受賞しました。



クラフトAIが自動生成したオンデマンド教材のサンプルを、本学DX推進計画サイトからご体験いただけます。 dx.hoku-iryo-u.ac.jp

第19回医療系eラーニング全国交流会 年次大会において「医療系大学でのデータサイエンス教育を支えるクラフトAI」が 大会奨励賞を受賞しました

2024年12月21日(土)～22日(日)に開催された、第19回医療系eラーニング全国交流会(会長 木下淳博 東京科学大学 Science Tokyo教授)の年次大会において、「医療系大学でのデータサイエンス教育を支えるクラフトAI」(二瓶裕之教授、西牧可織講師、高橋祐司講師、米田龍大助教)が大会奨励賞を受賞しました。本学情報センターで開発を進めているクラフトAIによる医療系大学でのデータサイエンス教育の手法が評価されました。クラフトAIは、授業の録画映像から自動的にオンデマンド教材を生成し、教員の発話については、英語をはじめ様々な言語に切り替えて視聴できるようにするなど、教育の国際化や学生の多様化に応えることを目指しています。



本学心理科学部 西牧可織講師が日本リメディアル教育学会第19回全国大会 発表優秀賞を受賞しました

2024年9月3日(火)に実践女子大学で第19回日本リメディアル教育学会が開催され、心理科学部の西牧可織講師が大会発表優秀賞を受賞しました。心理科学部で開講している「情報処理演習 II」と「基礎統計学」の2科目について、高等学校で新設された「情報 I・II」を踏まえ、pythonを活用したシミュレーションにより学ぶという先駆的な授業設計が評価されました。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを構成する「情報科学」や「医療データサイエンス入門 I・II」につながる授業内容であることも評価されました。日本リメディアル教育学会は、「リメディアル教育=学習・学修支援」という共通意識を持ち、「student success」を意識した活動を展開することを目指して2005年に設立された学会です。



EDITOR'S NOTE

今年度の国家試験も終わり卒業生が新たに社会に旅立っていきます。ほっと一息つく間もなく、すぐに次の年度の国家試験対策が始まります。1年間はあっという間です。歳を取るごとに時間の経過が早くなるとはよく聞きますが、本当にそう思います。シャンプーより洗顔料の使用量が増えていく気がし、階段を1階分登るだけで息切れをするので上階は空気が薄いのだろうと言い聞かせ、少し運動するだけで体が痛くなり逆に不健康な気がする今日この頃。早くなっていく時の流れとともに歳をとったなと実感する毎日です。これも全て加齢の影響であろうと言いたいところですが、本当はだらない自業自得の結果です。わかってはいますが毎年自分を変えることなく過ぎていきます。時間の経過が早くなっていくで対応できないわけではなく、ただ気合いが足りないだけです。そんなことを考えているうちに次の年度がスタートします。先日、卒業生が勤務している施設を訪問しました。学生時代はおとなしく少し頼りない感じもありましたが、堂々とテキパキと働いている姿をみて、とても嬉しく感じました。在学生はいつでも変わらず若く、それに比べ我々はどんどん老いていきますが、未来の医療人を世に出す喜びを感じ、時代の流れに取り残されないよう気合いで入れ直していきたいと思います。

卒業生の皆様、おめでとうございます!まだ社会人としてスタートに立った段階です。あっという間に時は過ぎていますので、若いうちにさまざまなことにチャレンジして、より成長していってください!

(K.K記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.184

STAFF ● 平野 剛
内ヶ島伸也
福田 実奈
近藤 啓
小林 昭博
町田 拓自
奥田かおり
大須田祐亮
高橋 鈴輔
土橋 幸
志茂 鈴木
山田 桃子
秋元 奈美
剛 和
志穂
山田 桃子
秋元 奈美
飯嶋 齋藤
葛西 三川
雅弘 清輝
恵一 駒澤
葛西 三川
清輝

発行日 ● 2025年3月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
TEL: 0133-22-2113
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/>

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念
生命的の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを北海道医療大学の教育理念とする。